（第3種郵便物認可）　埼玉新聞　2024年（

「安心

大宮

夏休みに入った7月28日、親子連れでにぎわうさいたま市大宮区の大和田公園プールでライフジャケット体験会が行われた。

海や川で遊ぶ機会が増えるこの時期に、水の事故の未然防止を啓発するため、日本赤十字社埼玉県支部（支部長・大野元裕知事）が開催。プール来場者に、ライフジャケットを着用して水に浮かぶ体験への参加を呼びかけた。

指導したのは、日赤のボランティアで水上安全法指導員5人。訪れた親子連れなどに、ライフジャケットの正しい着用の仕方や効果を発揮するための注意点を説明した。「ぶかぶかだと水の中で脱げてしまうので、ひもを体に合わせて締めてくださいね」と話す指導員のレクチャーを受け、参加者は自分の体に密着するようにライフジャケットを着けた。子ども用はすっぽ抜け

一緒に悩み考える

発達障害者 地域で支援

さいたま市

事業所訪問マネジャー配置

さいたま市は、発達障害者支援センターに、発達障害のある人を支援する事業所に対して、訪問コンサルテーションなどを行う「発達障害者地域支援マネジャー」を配置した。専門的な知識を持ったマネジャーが事業所の支援者が抱く不安に寄り添い、一緒に考え、サポートすることで、発達障害のある人が身近な地域で、きめ細やかな支援を安心して受けられることにつながる。

（石井大輔）

市発達障害者支援センターによると、発達障害のある人は、他人との関係づくりやコミュニケーションが苦手だったり、集中力が続かないなど症状が多様な現れ方をすることから、支える側は特性の理解と、その特性に応じた環境調整が求められるという。

厚生労働省の調査では、全国で発達障害と診断された人は2022年度は約87万人に上り、16年度の約48万人から大幅に増加。発達障害の疑いのある人などは数には含まれておらず、支援が必要な人はさらに多くなるとみられている。市障害政策課の統計によると、市内の障害福祉サービス事業所数は19年度の633から年々増え、今年度は1011に増加している。

これまでは事業所への支援の一部を発達障害者支援センターが担ってきたものの、相談や利用者の増加で、当事者からの直接相談や継続的な困難ケースの対応が中心となるため、増加する事業所などへ十分な支援が行えていないことが課題となっていた。

マネジャーの主な役割は、発達障害者を支援する事業所のほか区役所、医療機関、学校などを訪問し、困っている状況と課題の整理を手伝い、支援方針を話し合うコンサルテーション。さらに地域の支援者が集まる会議などに参加して支援力を強化するとともに、発達障害の理解を深める講座や支援者への専門研修なども実施していくという。

今年度はモデル区の北区と緑区を軸に2人のマネジャーが活動。5カ年計画で市内全域に広げていく方針だが、本年度も可能な範囲で全域からの相談に応じるとしている。

清水勇人市長は7月28日の定例会見で「マネジャーが専門性を発揮して、事業所などを支援することが地域全体の支援力向上につながる。発達障害で悩む当事者やその家族が迷わず、身近で相談支援を受けられる地域体制を強化していきたい」と述べた。

コンサルテーションの利用方法は「社会福祉法人　独歩」（☎048・620・1888）へ申し込む。費用無料。

地域支援マネジャーによるコンサルテーションの流れ（さいたま市提供）

関口農園が育てた県産ブランド梨「彩玉」を味わうことができる（提供）

ホテルメトロポリタンさいたま新都心（さいたま市中央区）は31日、県産ブランド梨の「彩玉」と2023酒造年度の全国新酒鑑評会で金賞を受賞した県産の日本酒を楽しめる1日限りのディナーを提供する。公式ウェブサイトでは5日から予約販売を始める。

同ホテルのシェフが腕を振るう肉や魚料理とともに、第2回全国梨選手権で最高金賞を受賞した関口農園（加須市）が育てた彩玉をデザートとして味わうことができる。日本酒は金賞を受賞した権田酒造

「菊泉ひ
れ、料理
る。
ディナ
定。料金
2人分、
込み）。
問い合
ロポリタ
（☎048
1）へ。

夜の川面に光の帯